

「道徳的諸価値についての理解」

を重点とした道徳科の授業づくり

第2学年 道徳科学習指導案

1 主題名「あいてを思いやって」（内容項目：B-6 親切、思いやり）

2 教材名「くりのみ」（出典「どうとく2」光村図書）

3 主題設定の理由

低学年の児童は、発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いため、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え優しく接することができるようにすることが大切である。

これまで学習した同じ内容項目の教材「どきどきしたよ」において、自分の考えを優先する発言が見られたことから、本時の学習を通して、相手の考えや気持ちに気付き、思いやりや親切な行為の意義について考えさせたい。

本教材は、拾った栗の実を独り占めしようとするきつねと、きつねに栗を分けようとするうさぎが登場する。きつねとうさぎ、それぞれの姿を自分の姿と重ね合わせることにより、相手の考えや気持ちに気付き、相手のことを考え、優しく接したりする態度を育てたい。

4 本時のねらい

困っている人のために自分にできることは何か考えるとともに、親切にしたり、されたりすることでどんな気持ちになるかを考え、相手を思いやり、親切にしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

5 本授業のポイント

- ① 導入時と展開時において、ポジショニング機能を活用して自分のことを振り返る場面を設定し、自分の気持ちの変容を捉えることができるようにする。
- ② 対話を通して、きつねとうさぎそれぞれの気持ちを多面的・多角的に考えさせるとともに、道徳的諸価値について理解できるようにする。

6 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の発言	○留意点 ■評価の観点 等
導入	1 自分のことについて振り返る ○困っている人に優しくしているかな？ ・できている ・できていないときもある ・できていない ○それはどんなときかな？ ・友達が悲しい顔をしているとき ・仲の良い人以外には優しくできない	○ICT 端末でポジショニング機能を活用し、自分が困っている人に優しくしているかを視覚的に捉えられるようにする。

	<p>2 きつねの気持ちを考える</p> <p>○きつねは、どんな気持ちで「だめ。だめ。何も見つかりませんでした。」と言ったのでしょうか。【人間理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だけのものにしたい ・頑張って拾ったからあげたくない ・拾ったことをばれないようにしたい 	<p>○教師が範読する。</p>
展 開	<p>3 自分がうさぎならどうするか考える</p> <p>○自分だったらくりのみをあげますか。また、それはなぜですか。【他者理解】</p> <p>4 うさぎの気持ちを考える</p> <p>○「しばらく考えていた」うさぎは、どんなことを考えていたのでしょうか。【価値理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あげたくないな ・あげたら自分の分がなくなる ・きつねさんがかわいそう ・困っているからあげよう <p>5 自己を見つめる</p> <p>○困っている人に優しくしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しくできていたと思う ・優しくできないときもあった 	<p>○きつねとうさぎ、それぞれの気持ちを考えさせ、道徳的価値を実現することの難しさや大切さについて自分の考えを深める。</p> <p>■それぞれの登場人物の立場から、相手を思いやることのよさや難しさについて考えている。</p> <p>○導入時のポジショニングの位置と比較し、自己の考えの変容について気付かせる。</p>
終 末	<p>6 困っている人がいるときにどんなことができればよいか、大切だと思ったことや今後の自分について考える</p> <p>○今日の学習で大切だと思ったことを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切にすること ・困っている人がいたら助けること ・今まで親切にできていなかったから、これからは人に優しくできるようになりたい 	<p>■これから人と関わっていく中で大切なことを考え、ワークシートに書いている。</p>